

Book Review



歯界展望別冊 歯科医師のための医学ハンドブック

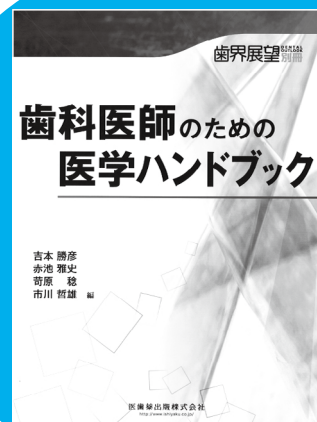
吉本勝彦・赤池雅史・苛原 稔・市川哲雄 編



Reviewer

矢島安朝 Yasutomo Yajima
(東京歯科大学 口腔インプラント学講座)

A4 判変, 224 頁
定価 (本体 5,800 円+税)
医歯薬出版刊



歯科医師、歯学部学生、臨床研修歯科医師を対象として、医学的知識を歯科医療のなかに有効に取り入れようという本書の出版は、まさに時を得た絶妙なタイミングであると感心している。

平成 26 年 2 月の歯科医師国家試験から出題基準が大幅に改正された。なかでも各論に新たな 1 章が追加されたが、この新設された 1 章とは、「高齢者や全身疾患をもつ者への対応に関する問題」であり、ブループリント(歯科医師国家試験設計表)によれば、各論総問題数 182 題のうちの約 10% を占めると設計されている。つまり、高齢者や全身疾患をもつ者に関する問題が、一気に 18 題追加されることになったのである。このような出題傾向の変更は、明らかに日本の歯科医師の将来像を示しているのだと考えられる。つまり、国家が望んでいる歯科医師は、全身状態を把握したうえで歯科医療を実践できる人間、各全身疾患の概念を理解し、臨床検査を読むことのできる歯科医師であるということであろう。これこそが、21 世紀型歯科医師であり、現在の日本に必要とされる歯科医師像であることが容易に推測できる。そんな歯科医師を作り上げるためには、本書『歯科医師のための医学ハンドブック』がたいへん役に立つと思う。

ところで、わが国の総人口は平成 25 年 10 月 1 日現在、1 億 2,730 万人であり、65 歳以上の高齢者人口は過去最高の 3,190 万人と報告された。総人口に占める高齢者人口の割合(高齢化率)は、これも過去最高の 25.1% と、日本人の 1/4 はすでに 65 歳以上であるわけである。これは諸外国と比較して、わが国はどこの国も経験したことのない高齢社会に突入してしまっている。人類が経験したことのない高齢社会のなかで、当然、歯科界においてもこれらの年齢層を患者とし、新しい歯科医療を形作ってゆく必要がある。高齢者は生理的機能が低下し、低栄養・免疫機能低下がみられるようになり、臓器障害も顕著化してくる。つまり、高齢者は多病であり、いくつかの疾患を重複してもっているというわけである。わが国の高血圧患者数は 4,000 万人、骨粗鬆症患者数 1,280 万人、糖尿病患者数は 690 万人であるといわれている。高齢で、複数の全身疾患をもつ患者ばかりが歯科診療室を訪れるという日が目の前に迫っている。

本書の最大の特徴は、内科疾患に限らず広範囲の疾患を対象としているため、われわれ歯科医師が知らなければならない全身疾患すべてが過不足なく記述されていることであろう。特に、

約 70 の疾患に対して、それぞれの項目の記述内容の統一性が抜群であり、これが本書を読みやすくしている最大の利点であると思われる。この、決して他書ではみられない統一性は、おそらく、オール徳島大学で編著がなされたからだと思う。日ごろから親しい先生方が忌憚のない意見を交わしあい、多くの会議時間をかけて生まれたものであることは容易に想像がつく。

Chapter 1 は症候別に記載され、Chapter 2~12 は疾患別の記載となっており、図表も多用されているので内容を把握しやすく、たいへん使いやすい構成になっている。Chapter 13~16 は、歯科医師が医科との連携を強固にするために重要な基本的事項が記載されている。さらに、本書の最後には用語・略語一覧が記載されている。医科からの返書のなかには多くの略号が記されていることがあり、歯科医師側はこれが何を意味するのかわからないことがある。このようなとき、この一覧表はたいへんありがたいものとなるであろう。

まさしく、時を得た『歯科医師のための医学ハンドブック』、21 世紀を歯科医師として生きて行くすべての先生方、学生諸君に、ぜひお勧めしたい良書である。